

開催期間:

2011.9.25~2012.10.31

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

14Members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

文部科学省, 名古屋市, 名古屋市教育委員会

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:	\$16565(1\$=¥90)
簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止	
利益／損失:	NONE
簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止	
誰の為に？	名古屋市内に住む 226 万人
主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。	
目的:	本事業の目的は持続発展可能な地域社会の創造です。 我々JCI 名古屋は、JCI ミッションに基づき、市民の意識を PositiveChange させる機会の提供を行いました。 意識開発の目標は、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」を創造することです。 意識開発の結果、地域の持続的発展が可能になります。

3 行程度 400 字以内

- ①名古屋市は人口が220万人の日本第3の都市です。
- ②名古屋市は、周囲からの人口流入により、地域とこれまでかかわりが無い人が増える都市化が進行しています。
- ③日本においては、伝統的に隣近所が自律的なコミュニティを作り、地域の次世代育成にかかわり、地域全体を持続的に発展させてきました。
- ④しかし、都市化の進行により、隣近所に誰が住んでいるか分からない状態になり、伝統的コミュニティが機能しなくなっています。
- ⑤この点につき、名古屋市と市民の協議会において、数年にわたって伝統的コミュニティに参加する人間の減少と固定化、高齢化が行政市民の双方から問題提起されています。
- ⑥本事業により「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」を創造することで、コミュニティを再創造し、地域全体を持続的に発展させることができます。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

JCI 名古屋は目的達成の為 2 回に分けて実行した。
地域全体で次世代を育成することを考える事業。

1、ステップ1 テストケースとしての市民による地域のイベントの自主企画と開催
小学校の子供を主たる対象者として実施。
地元の伝統文化体験をするイベントを新たに作る事業を行なった。
これは、市民が連帯して次世代を育成する意識開発をすることのテストケース。

概要:

- ①JCI 名古屋メンバー(14名), 会場となる小学校の地域に住む市民(16名)が実行団体を組織した。
- ②実行団体は, 祭りの開催のため, ひと月に1回, 定例会議を行なった。
老若男女が混じって議論を繰り返した。
- ③実行団体は, 定例会議後にニュースを刊行して地域全体に配布した。
実行団体に参加した市民以外にも広く事業が出来てゆくプロセスを宣伝した。
- ④定例会議以外の準備作業に, 実行団体メンバーと, 小学生(81名)が参加した。
世代間の交流が行なわれた。
- ⑤イベント当日は実行団体(30名), 小学生(81名), 市民(245名), 実行団体以外の JCI 名古屋メンバー(93名)が参加した。
- ⑥イベント当日に, 定例会議, 準備作業を録画した映像が上映された。
参加した市民に地域ぐるみの次世代育成についての啓蒙をした。
- ⑦イベントについて, 地域フリーペーパー(45000部発行)に報道された。
広く事業の趣旨と開催されたイベントについて報道された。

全部で 400字以上

2、ステップ2 地域全体で次世代を育成することについてのグループディスカッションの開催

「市民が連帯して次世代を育成する意識開発をすること」をテーマにグループディスカッションを行なった。

次世代育成に関わる行政諸機関の担当者, NPO 団体構成員, 市民(三者計73名), 小学生(10名), JCI 名古屋メンバー(14名)が参加。

①行政諸機関には事業趣旨を説明, 協力を得た。

②参加者は, 老若男女交えて7名ずつで1グループを作った。

彼らはグループごとに議論してテーマに関する課題を設定した。

③課題について参加者はそれぞれ解決策を提案し, その内容についてディスカッションした。

④ディスカッションの結果をグループごとに発表した。

⑤ゲストスピーカーの講評をうけた。

⑥ステップ1の事業についての映像, 検証結果が参加者に対し資料として提供された。

⑦ステップ1の事業において, ステップ2の事業の告知宣伝を行なった。

⑧事業については, 文部科学省のウェブサイトで紹介され, 広く事業の趣旨が市民に啓蒙された。

⑨事業について, ゲストスピーカーや参加者である教育専門家、参加者である有識者のSNSやブログ等に記載され, 広く活動内容の発信を図られた。

⑩事業について, 地域主要新聞(発行部数270万部)に, 参加者であった記者が体験記事を掲載し, 広く活動内容が報道された。

⑪事業について, 報告書を作り(1000部), 行政諸機関, 大学教育学部, 市民に対し配布した。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

結果をキチンと確認しないとココは書けません。
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

【要約】

結果1 参加者が、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」となった。

結果2 参加者が、具体的に、「地域全体で次世代を育成する」取り組みを行なった。

結果3 「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」の創造の重要性につき、広く市民に対し啓蒙活動がなされた。

【根拠】

結果1

参加者が、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」となった。

①ステップ1の実行団体に対し実施したアンケートでは、参加者全員(100%)が本事業により地域全体で次世代を育成するという意識を持ったとの回答を得た。

②ステップ2の事業参加者アンケートでは、参加者全員(100%)が本事業により地域全体で次世代を育成するという意識を持ったとの回答を得た。

<参加者のコメント>

様々な立場からの意見を元に議論ができたので良かった。

子供の視点は新しい視野を与えた。

具体的な取り組みはすぐに始められることだとの意識を持った。

③ステップ2の事業参加者アンケートにおいて、具体的な今後の取り組みについて、参加者から下記のような回答がなされた。

近所の住民と積極的に交流することで、地域の次世代を持つ家庭をサポートする。

本事業と同一の事業を独自に開催する。

自身のスキルを次世代につたえるイベントを行う。

学校を中心として、次世代育成について、地域組織を再編する。

結果:

身近なボランティアから参加したい。

結果2

参加者が、具体的に、「地域全体で次世代を育成する」取り組みを行なった。

①参加者に対する事後的ヒヤリングにおいて、下記のような回答が得られた。

近隣住民同士の集会に参加するようになった。

防犯対策として、カウベルを小学生に配った。

②参加者であった町議会議員が、自らの町で、「学校に地域住民と一緒に泊まることで、地域ぐるみで次世代育成に関わ

る」というプロジェクトを企画した。

結果3

「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」の創造の重要性につき、広く市民に対し啓蒙活動がなされた。

①名古屋市全域に事業の準備段階を含めた内容が報道されたことで、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」の創造の重要性が名古屋市民全体に伝えられた。

②ゲストスピーカーや参加者である教育専門家、参加者である有識者が、SNSやブログ等において本事業について有意義なものであると評価し、広く活動内容の発信が図られた。

③文部科学省のウェブサイトで紹介され、広く事業の趣旨が市民に啓蒙された。

④事業について、報告書を作り(1000部)、行政諸機関、大学教育学部、市民に対し配布したことで、活動内容の発信が図られた。

⑤ゲストスピーカーが、今回の事業についてモデルケースとして著書において紹介し、日本の大手出版社より25年5月出版される予定である。

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

<p>行動:</p>	<p>2011 9月25日 スタッフでの第1回会議 調査方針の決定</p> <p>2011 10月～2012 3月 名古屋以外の次世代教育の取り組み調査</p> <p>2012 3月23日 国会議員を講師に招いての勉強会</p> <p>2012 4月～6月 名古屋市の次世代育成についての既存の仕組み調査</p> <p>2012 6月 企画・立案</p> <p>2012 7月4日 ステップ1のイベント事業の実行団体第1回定例会議</p> <p>2012 8月18日 ステップ1の実行団体第2回定例会議</p> <p>2012 7月～8月 ステップ1のイベント事業の準備作業, 定例会議報告ニュースの配布</p> <p>2012 8月25日 ステップ1のイベント事業開催</p> <p>2012 9月15日 ステップ1の実行団体第3回定例会議(事後検証作業)</p> <p>2012 9月 ステップ2のグループディスカッションの準備作業 行政諸機関, NPO 法人への趣旨説明と協力取り付け, 名古屋市内小学校, 地域自治組織への PR</p> <p>2012 9月23日 ステップ2のグループディスカッション事業開催</p> <p>2012 10月 アンケート集計・お礼状の送付・事後ヒヤリング 事業全体の報告書作成, 配布</p>
<p>全部で 200 字以上 2000 字以内程度</p>	<p>読めば委員会の事業前から 事業後までの動きが だいたい、大まかに解るようにして下さい。</p>

<p>考察や推奨</p>	<p>①本事業のように、グループディスカッションを行なう場合、テストケースを事前に行ない、検証結果を紹介することで、市民に具体的なイメージと、強いインパクトを与え、市民がポジティブチェンジしやすい。</p> <p>②同じ目的をもつ行政諸機関、外部団体と共同することで、市民が事業後に具体的な行動を起こす際にどの機関、団体と連携すれば良いかが分かる。</p> <p>③事業についての報道、有識者の SNS、ブログ記事により社会により大きなインパクトを与えることが出来る。それゆえ、マスコミ関係者、有識者を事業に参加してもらい、その体験を書いてもらうことが重要である。</p>
	<p>①ステップ2の事業が、関与した有識者、マスコミ関係者により、本事業が有意義なものであると評価され、広く活動内容の発信が図られ、社会に大きなインパクトを与えた。</p> <p>②参加者であった町議会議員が、事業直後に具体的な「地域ぐるみで次世代を育成する事業」を企画した。</p>
	<p>その要因</p> <p>ステップ2のグループディスカッションが次の3つの理由により参加者に強いインパクトを与えた</p> <p>①ステップ1のテストケースの検証結果をステップ2において提供し、具体的なイメージを与えたこと</p> <p>②次世代育成に関わる行政諸機関との連携を図ったことにより、現実に実行可能なプランが提案された。</p> <p>③老若男女でグループを作ってディスカッションしたことにより、様々な視点からの問題提起、解決策が提案された。</p>

	<p>最も大事なポイント</p> <p>①実行団体を市民と作ってテストケースを行ないました。 その検証を行なった上でグループディスカッションを開催した。 このことで、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」を創造するという目的について具体的な議論ができたこと。</p> <p>②次世代の育成に携わる教育機関と共同して事業を行った。 このことで、「地域全体で次世代を育成するという意識を持った市民」の創造のためのネットワークが構築できたこと。</p>
<p>全部で200字以上</p>	<p>JCI 名古屋 LOM 内最優秀事業賞</p>
	<p>ゲストスピーカーのコメント</p> <p>次世代のもつ柔軟な発想, 論理的思考能力, プレゼンテーション能力に感銘を受けた。 又, それを引き出した現役世代の市民の能力にも感銘を受けた。 すべての参加者が積極的に議論に参加しており, 素晴らしいグループディスカッションが実現された。 JCI 名古屋メンバーのファシリテーションも, 綿密な準備と細心の注意をもってなされた素晴らしいものであった。 この事業が, さらに広がってゆくことを望む。</p>

- ①ステップ1のイベント事業について、地域フリーペーパー(45000部発行)において、広く事業の趣旨と開催されたイベントについて報道された。
- ②ステップ2の事業について、文部科学省のウェブサイトで紹介され、広く事業の趣旨が市民に啓蒙された。
- ③ステップ2の事業について、ゲストスピーカーや参加者である教育専門家、参加者である有識者のSNSやブログ等に記載され、広く活動内容の発信が図られた。
- ④ステップ2の事業について、地域主要新聞(発行部数270万部)発行に、参加者であった記者が体験記事を掲載し、広く事業内容が報道された。
- ⑤ゲストスピーカーが、今回の事業についてモデルケースとして著書において紹介し、日本の大手出版社より25年5月出版される予定である。